

母親と乳児の食事に関する研究 (第1報)

A Study on the Diet of Mothers and Their Babies (Report 1)

山 口 和 美・山 口 蒼生子¹⁾・高 橋 悦二郎²⁾

Kazumi YAMAGUCHI, Tamiko YAMAGUCHI¹⁾
and Etsujiro TAKAHASHI²⁾

ABSTRACT

Purposes of this study is determine the effect a mother's diet has on the diet of their babies by gathering information on their eating patterns. We investigated 51 mothers in Tokyo whose babies fall within the 5 to 12 month age range. A questionnaire was distributed to elicit information on their eating habits and a further nutrition survey was conducted.

- 1) The average number of family members most commonly surveyed was 3, or 4. The majority of families were nuclear units.
- 2) Most of the mothers surveyed were housewives in their 20s and 30s.
- 3) In most cases, the nutrient intake of the mothers was sufficient except the intake of calcium which less than Recommended Dietary Allowances for infant.
- 4) Mothers ate on average 25 kinds of foods per day, which is 84 % of the desired 30.
- 5) Weaning begins on average when the babies are 4.8 months old.
- 6) As the babies food, more mothers are likely to encounter difficulties with food preparation and need more information.
- 7) When giving nutrition guidance to mothers with babies, it is important to encourage mothers to pay attention to their own health so as to develop a healthy eating pattern.

I 緒 言

食事は、人間が食物を食べること¹⁾であり、食物の基本的条件は栄養、安全、嗜好²⁾である。食物の選択に対する考え方は、個人によ

り異なる。一方、食の外部化は生活水準の向上、女性の就労人口増加、食品製造の工業化、外食産業の進展等と共に増加した。家庭内における食事は、調理済み食品や惣菜等の加工食品の利用が多くなった²⁾。幼児期は、著しい心身の発育と生活習慣形成の時期であるが、食習慣はそれ以前に獲得するとも考えら

1) 千葉県立衛生短期大学 栄養学科

2) 前 女子栄養大学 小児栄養学研究室

れる^{3) 4)}。乳幼児期における食物の質や量の選択は、母親や周囲の者に依存している⁵⁾。そのため、母親は乳幼児に栄養バランスのとれた食事や環境、適切な養護を与え、自らも健康的に育児を理解する心の準備が大切である。従って、乳幼児期の栄養指導は母親や保育者の考えを把握することが重要ではないかと考える。

以上から、本研究は、乳児期の栄養指導の検討を行なうため、調査対象を母親と乳児に設定し、実施することにした。

Ⅱ 目 的

本研究の目的は、母親の食事が離乳食にどのような影響を及ぼすのかを検討するため、母親と乳児の食事状況の実態を明らかにすること、とした。

Ⅲ 調査方法

1 調査方法

本研究は、東京都練馬区 H 保健相談所の育児・栄養相談に来所した母親 51 名（月齢が 5 カ月～12 カ月の乳児がいる）を対象に食事に関するアンケート調査と食事の実態調査を行なった。調査協力の依頼は、母親に本研究目的を説明した 82 名に対して行なった。

調査は 1992 年 9 月中に実施した。

1) 食事に関するアンケート調査（様式 1～2 参照）

調査票は調査の枠組み（様式 4 参照）を基に作成し、記入方法は面接聞き取りにより行なった。乳児の身長・体重は母子手帳より転記し、母親の値は調査直前の実測値を記入して貰った。

2) 母親と乳児の食事の実態調査（様式 3 参照）

食事の実態調査は記入用紙を作成し、記入モデルと共に母親に配布後、説明を行なった。記入方法は留置法により、母親にアンケート調査翌日の 1 日分の食事の記入を依頼した。食事記録票の回収は、調査者が直接受け取り、一部は郵送法を用いた。食事記録票の不明瞭な点は、回収時に直接又は電話により確認を行なった。食事の実態調査は、調査協力 82 名のうち 55 名の回答が得られた（回収率 67%）。そのうち栄養素等摂取量が算出できたのは 51 名であり、以下の解析は、この 51 名について行なった。

3) 集計・解析方法

食事に関するアンケート調査は、各質問項目の単純集計を行い、解析は t-検定、 χ^2 検定、一元配置分散分析を行なった。栄養価計算は、東京大学大型計算機センター HITAC 682 (PROGRAM LIBRARY は、EIPAC) を用いた。なお、乳児の月齢区分は、離乳型⁶⁾を参考に月齢を 5～6 カ月、7～8 カ月、9～10 カ月、11～12 カ月に分類して集計した。乳児の発育状態の評価は BMI (Body Mass Index) を算出した。母親の体格指数は桂氏変法により算出した。

Ⅳ 調査結果及び考察

1 家庭環境（表 1 参照）

家庭環境は、乳幼児の食習慣等の形成上に影響を及ぼす⁵⁾。調査対象者の家族の人数は、3 名が最も多く（76%）、次いで 4 名が 20% であった。家族の形態は、核家族が多くみられた。

2 属性

1) 母親の属性

母親の年齢は20～29歳が27名、30～39歳が24名であり、19歳以下及び40歳以上はいなかった。母親の就業率は8%と低く、専業主婦が多かった（92%）。

2) 母親の身体状況

母親の身長は 157 ± 5 cm、体重は 51 ± 6 kg、年齢による身長及び体重の差異は認められなかった。体格指数は桂氏変法⁷⁾により算出した結果、「普通」が多く（69%）、「やせ」が23%、「肥満」は少なかった（8%）。

3) 母親の健康状況

母親の健康状況はほとんどが「健康である」（98%）と回答し、調査時に医師受診はわずか4%であった。

4) 乳児の性別及び月齢分布（表2参照）

乳児は男児が24名、女児が27名であり、月齢は6ヵ月児が男女児共に多かった。出生順位は第1子が多く（84%）第2子は16%、第3子以上は存在しなかった。

5) 乳児の身体状況（表3参照）

乳児の身長及び体重と、厚生省乳幼児身体発育値⁸⁾と比較したが差異は、認められなかった。また、月齢別身長及び体重は一元配置分散分析の結果、有意差が認められ（ $p < 0.01$ ）、順調に発育している様子が伺えた。

乳児の発育状態の評価は、BMI（Body Mass Index）を算出し、今村⁹⁾の基準を参考に検討を行った。「普通」が48%、「太りぎみ」24%、「やせぎみ」15%であり、「太りすぎ」は9%、「やせすぎ」は4%であった。肥満傾向の乳児と母親との比較では、有意な関連

表1 調査対象者の属性

世帯人数	母親の年齢		計
	20～29歳	30～39歳	
3人	22 (43)	17 (33)	39 (76)
4人	3 (6)	7 (14)	10 (20)
5人	0 (0)	0 (0)	0 (0)
6人	1 (2)	0 (0)	1 (2)
7人	0 (0)	0 (0)	0 (0)
8人	1 (2)	0 (0)	1 (2)
計	27 (53)	24 (47)	51 (100)

※人数（%）

表2 乳児の月齢分布

月齢		性別		
		男児	女児	計
月 齢	5ヵ月児	1	6	7
	6ヵ月児	8	8	17
	7ヵ月児	0	2	2
	8ヵ月児	4	3	7
	9ヵ月児	2	2	4
	10ヵ月児	3	5	8
	11ヵ月児	4	0	4
	12ヵ月児	2	1	3
計		24 (47)	27 (52)	51 (100)

※ 上段：人数、下段：%

表3 乳児の身体状況

月齢	人数	身長(cm)	体重(kg)	BMI
5～6ヵ月児	23	65 ± 4	7 ± 1	17 ± 2
7～8ヵ月児	9	67 ± 4	8 ± 1	18 ± 2
9～10ヵ月児	12	73 ± 3	9 ± 1	16 ± 1
11～12ヵ月児	7	74 ± 1	9 ± 1	16 ± 1
計	51	69 ± 5	8 ± 1	17 ± 1

※ 平均値±標準偏差

※ 一元配置分散分析による ** $p < 0.01$

※ BMI: Body Mass Index

表4 母親の栄養素等摂取量

栄養素の種類	栄養素摂取量	栄養所要量	充足率(%)
エネルギー (kcal)	1,690 ± 240	2,012 ± 86	84
たん白質 (g)	64.5 ± 11.9	57.8 ± 3.2	112
脂肪 (g)	59.1 ± 16.8	55.9 ~ 67.1	106 ~ 88
カルシウム (mg)	473 ± 204	554 ± 30	85
鉄 (mg)	8.4 ± 2.3	12	70
ビタミンA (IU)	2,043 ± 835	1,800	114
ビタミンB ₁ (mg)	1.01 ± 0.41	0.81 ± 0.03	125
ビタミンB ₂ (mg)	1.09 ± 0.31	1.11 ± 0.04	98
ビタミンC (mg)	71 ± 37	50	142

※ 平均値±標準偏差

※ 脂肪はエネルギー所要量の25~30%として算出

表5 母親の授乳に伴う影響によるエネルギー所要量

	5~6ヵ月児 の母親	7~8ヵ月児 の母親	9~10ヵ月児 の母親	11~12ヵ月児 の母親
乳汁量 (ml)	879	657	482	351
付加量 (kcal)	+742	+562	+420	+313
授乳期 エネルギー 所要量 (kcal)	2519	2339	2197	2090
エネルギー摂取量 (kcal)	1715	1643	1687	1694
充足率 (%)	68	70	77	81

※ 付加量：生活活動強度（軽い）に対する付加量

※ 授乳をしている母親は非妊婦人のエネルギーの1/10を余分に消費することとした

※ 母体蓄積の脂肪（3kg）は6ヵ月で消費することとした

は認められなかった。

6) 乳児の健康状況

乳児の健康状況は、母親の評価によると「良好である」が多く（78%）、次いで「普通」が多かった（20%）。「調子が悪い」は殆どみられなかった（2%）。なお、調査時に医師受診している乳児は10%であった。健康状況について乳児と母親と比較したが、有意な関連は認められなかった。

3 母親の食事の実態

1) 母親の栄養素等摂取状況（表4～5参照）

母親の1人1日当たり平均栄養所要量は、生活活動強度（中等度）・女子における年齢階層別、身長別栄養所要量¹⁰⁾を参考に個人別に算出し、授乳に伴う影響を考慮しなかった。栄養素等摂取量をこの栄養所要量に対する充足率を求め検討した。脂肪はエネルギー総所要量の25~30%として算出した。栄養素

表6 離乳食作りの悩み

情報 月齢	あまり 悩まない	時々 悩む	悩むこと が多い	N A
5～6ヵ月児 を持つ母親	8 (35)	14 (61)	0 (0)	1 (4)
7～8ヵ月児 を持つ母親	2 (22)	6 (67)	1 (11)	0 (0)
9～10ヵ月児 を持つ母親	1 (8)	9 (75)	2 (17)	0 (0)
11～12ヵ月児 を持つ母親	1 (14)	4 (57)	2 (29)	0 (0)
計	12 (23)	33 (65)	5 (10)	1 (2)

※ 上段：人数、下段：%

等摂取量はエネルギー、カルシウム、鉄が栄養所要量より不足しており、カルシウムは国民栄養調査結果¹¹⁾においても不足していることから注意を払う必要があると判断された。

さらに、母親のエネルギー摂取量について授乳に伴う影響を考慮し、検討を行なった。授乳婦の栄養付加量は生活活動強度（軽い）に対する付加量とした。増加必要量は母乳の平均エネルギー量0.65 kcal/ml、1日の泌乳量、乳汁生産のエネルギー効率80%にもとづき算出した（A）。そして哺乳活動のために非妊婦人のエネルギーの1/10を余分に消費し（B）、一方、妊娠中に母体に蓄積した脂肪3 kgが6ヵ月に消費すると仮定すると1日150 kcalの消費となる。従って、授乳婦が1日に摂取する付加量は、次式に示すとおりである。

$$(A) \text{ kcal} + (B) \text{ kcal} - 150 \text{ kcal} = \text{付加量}$$

母親のエネルギー摂取量は授乳期の栄養所要量により検討を行なった結果、充足率が68～81%であり、不足していた。特に、5～6ヵ月児の母親の充足率が低く、妊娠中の母体

に蓄積した脂肪が3ヵ月より早く消費されていると判断する。

2) 母親の食事における食品の種類数

母親の1日当り使用食品数は平均25±5品であり、最小値は12、最大値は37であった。食品数が多くなるに従い、母親の栄養素等摂取量も多くなるという正の相関が認められた。1日当りの食品数は、望ましい健康づくりのために30食品¹²⁾と考えられ、本研究においては84%の充足率であった。

3) 母親の食事における料理数

母親の1日当り料理数は平均11±3種、最小値は5種、最大値は16種であった。料理数が増えると栄養素等摂取量も多い傾向がみられた。

4 乳児の食事状況

1) 離乳食

離乳食の開始月齢は平均4.8±0.6ヵ月であり、5ヵ月頃が多かった（63%）。この傾向は、離乳の基本案¹³⁾とはほぼ同様であった。

2) 離乳食作り（表6参照）

表7 離乳食作りに関する情報

情報 月齢	欲しいと よく思う	時々欲しい と思う	あまり欲 しくない	N	A
5～6カ月児 を持つ母親	6 (26)	12 (52)	4 (18)	1 (4)	
7～8カ月児 を持つ母親	5 (56)	4 (44)	0 (0)	0 (0)	
9～10カ月児 を持つ母親	8 (67)	3 (25)	1 (8)	0 (0)	
11～12カ月児 を持つ母親	5 (71)	2 (29)	0 (0)	0 (0)	
計	24 (47)	21 (41)	5 (10)	1 (2)	

※ 上段：人数、下段：%

表8 離乳食作りに関する情報の入手

情報源 月齢	よく見る	時々見る	あまり 見ない	N	A
5～6カ月児 を持つ母親	11 (48)	10 (44)	1 (4)	1 (4)	
7～8カ月児 を持つ母親	4 (44)	4 (44)	1 (12)	0 (0)	
9～10カ月児 を持つ母親	4 (33)	6 (50)	2 (16)	0 (0)	
11～12カ月児 を持つ母親	4 (57)	2 (29)	1 (14)	0 (0)	
計	23 (45)	22 (43)	5 (10)	1 (2)	

※ 上段：人数、下段：%

離乳食は「母親が作る」という回答が多かった(96%)。

母親が離乳食作りに関して「時々悩む」と回答した割合はどの月齢においても多くみられた(65%)。母親が離乳食作りを「悩むことが多い」割合は乳児の月齢が高くなるに従って多くなり、「あまり悩まない」割合は減少した。

3) 離乳食情報(表7～8参照)

母親が離乳食作りに関する情報を「欲しいと思う」または「時々欲しいと思う」と回答

した割合はそれぞれ47%、41%であった。

「離乳食作りに関する情報が欲しい」割合は、乳児の月齢が高くなるに従い、多くなった。また、離乳食作りに関する情報源は「本やテレビ」と回答した割合が多くみられた(88%)。

2) ベビーフード(表9～11参照)

ベビーフードの使用状況は「時々使う」が多く(47%)、「使わない」が31%、「よく使う」が22%であった。

母親が利用しているベビーフードの内容について検討を行った。母親が利用するベビー

表9 ベビーフードの使用状況

ベビーフード 月齢	よく使う	時々使う	使わない	計
5～6ヵ月児	8 (35)	9 (39)	6 (26)	23 (100)
7～8ヵ月児	0 (0)	6 (67)	3 (33)	9 (100)
9～10ヵ月児	1 (8)	8 (67)	3 (25)	12 (100)
11～12ヵ月児	2 (29)	1 (14)	4 (57)	7 (100)
計	11 (22)	24 (47)	16 (31)	51 (100)

※ 上段：人数、下段：％

表10 ベビーフードの種類

ベビーフード 月齢	パン粥・粥 うどん	レバー・魚 豆腐・肉	芋・野菜	スー プ	デザート
5～6ヵ月児	3 (10)	13 (43)	4 (13)	9 (30)	1 (3)
7～8ヵ月児	1 (8)	5 (42)	1 (8)	4 (33)	1 (8)
9～10ヵ月児	3 (23)	8 (62)	0 (0)	2 (15)	0 (0)
11～12ヵ月児	1 (13)	5 (65)	0 (0)	2 (25)	0 (0)
計	8 (13)	31 (49)	5 (8)	17 (27)	2 (3)

※ 上段：人数、下段：％

表11 ベビーフードの利用理由

利用理由 月齢	好むから	調理が 簡単	衛 生 的	量がちよ うどよい	形 態	栄 養 が あ る
5～6ヵ月児	2 (6)	13 (41)	6 (19)	5 (19)	5 (16)	1 (3)
7～8ヵ月児	0 (0)	6 (55)	3 (27)	0 (0)	1 (9)	1 (9)
9～10ヵ月児	0 (0)	10 (71)	0 (0)	1 (7)	3 (21)	0 (0)
11～12ヵ月児	0 (0)	6 (75)	1 (13)	0 (0)	1 (13)	0 (0)
計	2 (3)	35 (54)	10 (15)	6 (9)	10 (15)	2 (3)

※ 上段：人数、下段：％

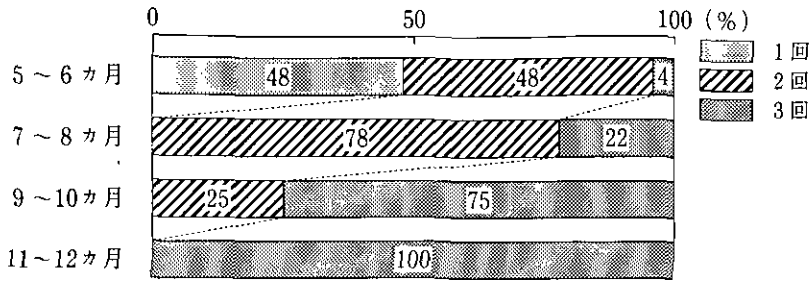


図1 乳児の離乳食回数

フードの種類は、「レバー・魚・豆腐・肉類」(49%)が多くみられた。ベビーフードは、乳児の月齢が高くなるに従い、「レバー・魚・豆腐・肉類」がよく利用され、月齢が低いほど色々な種類が使われていた。ベビーフードを利用する理由は、「調理が簡単」が多かった(54%)。また、離乳開始時期に相当する5~6ヶ月児のベビーフードの利用理由は多岐に及んでいた。この結果は高橋ら¹⁴⁾の報告とも一致していた。

3) 離乳食1日当りの回数(図1参照)

離乳食1日当たりの回数は、5~6ヶ月児が1回と2回(共に48%)、7~8ヶ月児は2回(78%)、9~10ヶ月児は3回(75%)が多くみられた。乳児の月齢が高くなるに従い、回数も多くなり、 χ^2 検定の結果、有意差が認められた($p<0.01$)。

4) 離乳食1日当りの食品種類数

離乳食1日当たりの食品種類数は、5~6ヶ月児が 8 ± 4 種類、7~8ヶ月児 14 ± 4 種類、9~10ヶ月児 21 ± 5 種類、11~12ヶ月児が 25 ± 5 種類であった。月齢が高くなるに従い、食品の種類数も多くなった。

5) 離乳食1日当りの料理数

離乳食1日当たりの料理数は、5~6ヶ月児 4 ± 2 種類、7~8ヶ月児 6 ± 2 種類、9~10ヶ月児 10 ± 3 種類、11~12ヶ月児 13 ± 2

種類であった。月齢が高くなるに従い、料理数も多くなり、一元配置分散分析の結果、有意差が認められた($p<0.01$)。

6) 離乳食における調理方法

離乳食の調理方法は煮物、あえ物、なま物、焼き物、炒め物が多く出現していた。揚げ物は11~12ヶ月児にのみ出現しており、離乳食は乳児の発育に応じて進められていることが認められた。

V 結 論

母親は離乳食作りに関して悩んだり、情報を得るなどを行い、乳児の食事にとりくんでいる姿勢が伺えた。また、離乳食は乳児の月齢に応じて進められており、母親自身の食事に類似する傾向も伺えた。しかし母親自身の食事は、カルシウムと鉄が不足がちであったので注意が必要である。従って、乳児を持つ母親に栄養指導をする場合、母親自身が望ましい食習慣を心がけるような指導も大切ではないかと判断した。今後、母親と乳児の食事の比較を行い、母親の及ぼす影響をさらに検討したい。

VI 要 約

本研究は、母親の食事が離乳食作りにどの

ような影響を及ぼすのかを明らかにするため、まず、母親と乳児の食事状況について実態を把握することを目的に行った。調査は、東京都練馬区の月齢5ヵ月～12ヵ月の乳児を持つ母親各51名を対象に行った。

- 1) 調査対象者の家族の人数は3名、次いで4名であり、家族形態は核家族が多かった。
- 2) 母親の年齢は20～29歳が27名、30～39歳が24名であり、専業主婦が多かった。
- 3) 母親の栄養素等摂取量はほぼ充足していた。しかしカルシウムが栄養所要量より不足しており、注意を払う必要があると判断した。
- 4) 母親の食品の種類数は1日当たり平均25±5品であり、望ましいとされる30食品に対して84%の充足率であった。
- 5) 母親の食事における料理数
母親の1日当たり料理数は平均11±3種であった。料理数が増えると栄養素等摂取量も多くなる傾向がみられた。
- 6) 離乳食の開始月齢は平均4.8±0.6ヵ月であり、離乳の基本案¹³⁾とほぼ同様であった。
- 7) 離乳食の回数、食品数、料理数は、乳児の月齢が高くなるに従い、増える傾向が認められた。
- 8) 母親が離乳食作りを「悩むことが多い」割合は乳児の月齢が高くなるに従い、多くなった。
- 9) 母親が離乳食作りに関する情報を「欲しいと思う」または「時々欲しいと思う」と回答した割合が多かった。情報に対する要求は、乳児の月齢が高くなるに従い、増加した。

参考文献

- 1) 吉川春寿、芦田淳編：総合栄養学事典、

- p. 328 (1985) 同文書院
- 2) 島田淳子、畑江敬子編：調理学、p. 201－202 (1990) 朝倉書店
 - 3) 木村修一：現代人の栄養学、p. 8 (1976) 中公新書
 - 4) 熊谷修他：食の科学、32－37 (1992)
 - 5) 城田知子他：中村学園研究紀要、203－210 (1981)
 - 6) 高野陽他：母子保健マニュアル、p. 112 (1987) 南山堂
 - 7) 藤沢良知他：栄養指導マニュアル、p. 35 (1989) 南山堂
 - 8) 日本総合愛育研究所：日本子ども資料年鑑第三巻、KTC 中央出版、p. 112－113 (1990)
 - 9) 今村栄一：小児科臨床、36(9)、p. 2107 (1983)
 - 10) 香川綾：四訂食品成分表、p. 258－265 (1992) 女子栄養大学出版部
 - 11) 厚生省保健医療局：平成3年版国民栄養の現状、p. 111－130 (1992) 第一出版
 - 12) 厚生省保健医療局：健康づくりのための食生活指針（対象特性別）、p. 31－43 (1990) 第一出版
 - 13) 今村栄一：離乳の基本、p. 22－23 (1981) 医歯薬出版
 - 14) 高橋悦二郎：厚生省心身障害研究、p. 703－716 (1990)
 - 15) 島菌順雄：標準栄養学各論第5版、(1995) 医歯薬出版

様式1 フェイスシート

お母さまとお子様のことについてお伺いします。

該当する文字や数字に○印をつけて下さい。

なお、() 内には適当な数字をご記入ください。

1) お母さまについて

2) お子様について

(記入月日: 月 日)

調査項目	お母様
年齢(年代)	() 代
家族数	() 人
家族構成	夫・祖父母・子供() 人 その他()
健康状況	良好・普通・調子が悪い
受診状況	現在有り・現在無し
身長・体重	() cm・() kg
食欲の有無	有り・無し
食事の規則性	規則正しい・時々不規則・不規則
職業の有無	有り・無し
職業の形態	常勤・パートタイム・自営業 内職・その他()

調査項目	お子様
性別	男・女
生年月日	年 月 日生 () カ月
出生時身長・体重	() cm・() g
現在の身長・体重	() cm・() g *
出生順位	第() 子
兄弟の有無	有り・無し
健康状況	良好・普通・調子が悪い
受診状況	現在有り・現在無し
食欲の有無	有り・無し
食事の規則性	規則正しい・時々不規則・不規則

様式3 食事記録票

平成4年 月 日()

食事記録表

お母様とお子様の1日の食事内容をお書き下さい。

(※印のところは記入しなくてもよいです)

1. 買ってきたおそうざい等(天ブラ、サラダ等)を使用した時には、料理名の前に○印をつけて下さい。
2. 離乳食にベビーフード等の市販品を使った時には、料理名の前に○印をつけて下さい。

お子様の食事					
時刻 食べ始め 食べ終り	料理名	食品名	おおよそ の 量	(形態)	※ (調理法)

お母様のお食事					
時刻 食べ始め 食べ終り	料理名	食品名	おおよそ の 量	(形態)	※ (調理法)

様式2

食生活状況調査票（記入日： 月 日）

記入上の注意：該当する文字や数字1つ○印を付けて下さい。

（ ）内には適当な数字をご記入下さい。

お子様の食生活状況についてお伺い致します。

1. お子様に離乳食を与え始めた月齢は、いつ頃ですか？（ ）カ月頃
2. お子様の離乳食作りについてお伺い致します。
 - 1) 普段、お子様の離乳食作りをしているのは、主としてどなたが多いですか？
 1. あなた自身
 2. 夫
 3. 祖母
 4. その他（ ）
 - 2) あなたは離乳食作りに関する情報が欲しいと思いますか？
 1. よく思う
 2. 時々思う
 3. あまり思わない
 - 3) あなたは離乳食作りに関する本やテレビを見ることがありますか？
 1. よく見る
 2. 時々見る
 3. あまり見ない
 - 4) あなたは離乳食作りについて悩むことがありますか？
 1. あまり悩むことはない
 2. 時々悩む
 3. 悩むことが多い
 - 5) あなたは離乳食にベビーフードを使っていますか？
 1. よく使う（週3回以上）
 2. 時々思う（週1回位）
 3. ほとんど使わない
 - 6) ベビーフードを使う理由は、主として次のうちどれですか？
 1. 好まれるから
 2. 調理が簡単だから
 3. 衛生的だから
 4. 量がちょうどよいから
 5. 形態がちょうどよいから
 6. 栄養があるから
 7. その他（ ）
 8. わからない
 - 7) よく使うベビーフードは、次のうちどのような種類が多いですか？
 1. パン粥、うどん、おかゆ類
 2. レバー、魚、豆腐、肉類
 3. 芋、野菜類
 4. スープ類
 5. デザート類
 6. その他（ ）
 7. わからない
3. お子様に与えている乳汁等についてお伺いします。
 - 1) 現在、お子様に与えている乳汁の種類は、次のうちどれですか？
 1. 母乳
 2. 調製粉乳
 3. フォローアップミルク
 4. その他（ ）
 - 2) お子様に与えている授乳の時刻と1回当りの授乳量をお書きください
授乳時刻：午前（ ）時頃、（ ）時頃、（ ）時頃、（ ）時頃
午後（ ）時頃、（ ）時頃、（ ）時頃、（ ）時頃
1回当りの授乳量：（ ）ml 位
4. 現在、お子様に牛乳を与えていますか？
 1. 飲む牛乳を与えている
 2. 離乳食の調理に使っているが、飲む牛乳は与えていない
 3. まだ、全く与えていない

1. に○印を付けた方にお伺いします。
お子様に牛乳を1日どの位の量を与えていますか？

 1. 1日当りの牛乳の量：（ ）ml 位
 2. わからない

ご協力頂き本当にありがとうございました。

様式4 調査の枠組み

大項目	中項目	小項目	備考
母親の属性	属性	年齢 家族数、家族構成 職業、就業形態	フェイスシート (様式1)
	身体状況	身長、体重 体格指数	
	健康状況	体調、受診の有無	
乳児の属性	属性	性別、生年月日 出生時身長、体重 出生順位、兄弟構成	
	身体状況	身長、体重 体格指数	
	健康状況	体調、受診の有無	
母親の食生活	食事状況	食欲、食事の規則性	フェイスシート
	食事の実態	食事時刻 料理名、献立名、概量 調理法	食事記録票 (様式3)
乳児の食生活	食事状況	食欲、食事の規則性	フェイスシート
	乳汁栄養法	乳汁種類、哺乳量 授乳時刻、回数	食生活調査票 (様式2)
	離乳	離乳開始月齢 ベビーフード	
	母親の意識	離乳食作りの情報 離乳食作りの悩み	
	離乳食の実態	食事時刻 料理名、献立名、概量 調理法	食事記録票 (様式3)